

新興国レポート

新興国債券が回復傾向に

米国の金融政策の見直し等を受けて、新興国債券は堅調な展開に

- ✓ 2019年初から新興国債券は回復傾向に。米利上げ懸念の後退等が要因か。
- ✓ 米国金利の安定を背景とした新興国通貨高米ドル安により、新興国債務の返済負担の軽減、インフレ率の落ち着き等が好感され、新興国への資金流入は続く見込み。

～新興国債券が回復傾向に～

- 米ドル建て新興国債券と米国10年国債の спреッドは2018年8月をピークに緩やかに縮小（米国債に比べ新興国債券が選好される）傾向にあります。2019年2月28日時点の спреッドは2.93%と、2018年初の水準に比べ0.9%程度の開きがあるため、当面は спреッドの縮小が期待されそうです（図表1）。

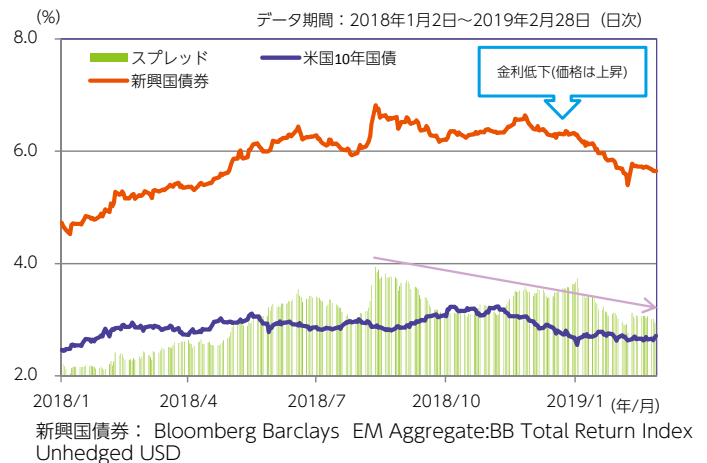
～米利上げ懸念の後退に伴い、資金が新興国へ流入～

- 米中貿易摩擦の影響による景気減速懸念やパウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長が、年内の利上げに慎重な姿勢を示したこと等を受けて、市場では当面の間、金融政策は変更されないとの見方が広がりつつあります。米国10年国債金利は、2.6～2.8%台での落ち着いた動きとなっており、欧米諸国に比べて金利水準の高い新興国に資金が流れやすい環境となっています。米国上場の新興国債券ETFの内、2019年2月28日時点で純資産総額が10億米ドル（約1,100億円）以上のETF3銘柄を対象に海外からの資金フローを計算すると、2019年1月は14億米ドル（約1,550億円）と2018年1月の18億米ドル（約2,000億円）以来の10億米ドルを超える資金流入となりました。2019年2月も8.5億米ドル（約940億円）の資金流入となっています（図表2）。

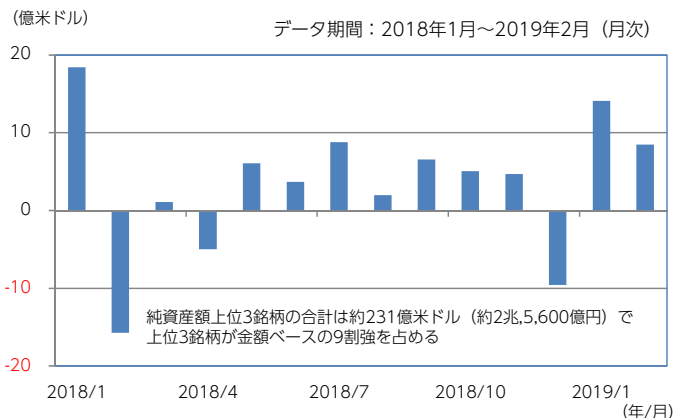
～米ドル高が止まったことも新興国債券の後押しに～

- 2018年4月頃より上昇傾向にあったドル指数（ユーロ、円、ポンド等の主要国通貨に対する米ドルの総合的な価値を指数化したもの）が、2018年11月に高値を付けた後、伸び悩んでいる一方で、新興国通貨指数は上昇傾向にあります（図表3）。新興国通貨高米ドル安は、新興国の米ドル建て債務の返済負担を軽減し、新興国の財政改善につながるため、当面新興国債券の利回り低下は続きそうです。また、自国通貨が高くなることで輸入物価が低下し、インフレ率の安定にも寄与するものとみられます。インフレ率が安定すれば、インドのように利下げという選択肢も可能となり、さらに債券相場の追い風となりそうです。

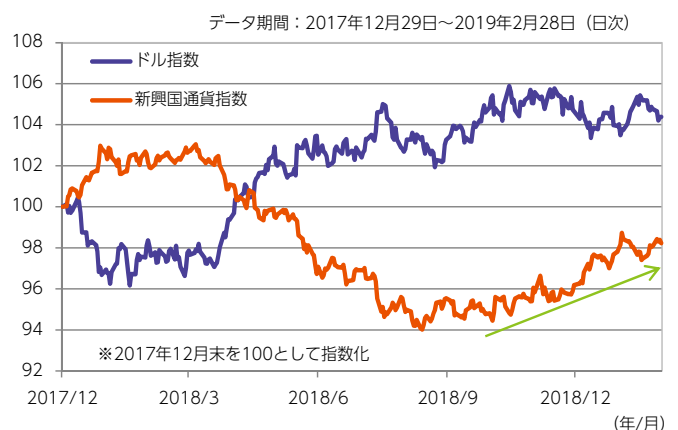
図表1：新興国債券と米国債とのスプレッド



図表2：新興国債券ETFへの資金流出入額推移



図表3：新興国通貨指数とドル指数の推移



出所) 図表1～3はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

ドル指数：ICE（インターコンチネンタル取引所）USドル指数
新興国通貨指数：MSCI新興国通貨指数

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>